



卒園式を終えられた園が多いと思いますが、どんな式だったのでしょうか？子どもたちにとって思い出深い式になったでしょうか。子どもたちが長い時間を過ごす園は、ひとの生きる根っこをつくるうえでとても大切な場所です。私たち保育者は、子どもたちが初めて会う家族以外の大人として、愛情と高い専門性をもとに、人への信頼感、学ぶ意欲を育んできました。子どもたちは園で培った生きる力を発揮して、自信をもって過ごしてくれることだと思います。

今、令和5年度の終わりと令和6年度の保育のスタートを控えとても忙しい時期だと思います。

こんな忙しい時期だからこそ、自分の保育を振り返ることがとても大切です。

全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」や「これって虐待？～子どもの笑顔を守るために～（保育者向け児童虐待防止のための研修用ワークブック）」に取り組む、掛札逸美先生の配信動画を通して、ハラスメントを考える、保育環境の見直し、保護者対応を振り返るなど全職員で取り組んでいきましょう。求められる専門職集団として、あるべき姿を見直しておくこと、今後の保育、保育者、園の姿をイメージし、専門職同士で語り合うなど互いを高め、共通認識しておきましょう。保護者にも園の方針やクラスの取り組みを伝えるだけでなく、専門職として子どもの発達やクラスの状況を日頃から伝えていきましょう。一番大切なことは心から子どもたちの命と笑顔と尊厳を守ることです。

ただ、長く続いたコロナ禍は子ども、保護者、保育者に大きな影響を与え続けています。語り合うこと伝え合うことができなかつた時間は、一度には戻りません。望ましい関係の再構築には3倍も4倍も時間がかかるかもしれませんが、これも「こどもたちが現在（いま）を幸せに生活し、未来（あす）を生きる力を育てる保育の仕事」の1つです。誇りと責任をもって自らの人間性と専門性の向上に努めていきましょう。

令和5年度保育士会・給食部会のブロック長、給食部会副会長は3月末で交代になります。

各園の業務の忙しい中、会員のためリーダーとしてご尽力いただきましたこと感謝いたします。支えてくださった園の先生方ありがとうございました。

尚、保育士会会長・副会長、給食部会長は5月末までの任期、もう暫くお付き合いくださいね。

園にも熊本にも、九州にも全国にも・・・保育者の仲間はたくさんいます。これからも、つながって支え合っていきましょうね。

R6.4.12 令和5年度 九社連保育協議会保育士会 第5回会長会議/令和6年度第1回九社連保育協議会各県（市）会長・保育士会長合同会議

全国保育研究大会（全社協）及び全国保育士会研究大会（全国保育士会）の一本化により、九州三団体の割り当て数の見直し等についての会議です。九州の決定を受けて熊本市の発表が変わります。



全国保育士会 委員総会報告（令和6年2月15日）  
 令和6年度 全国保育士会 事業計画  
 ～子どもの現在（いま）と未来（あす）を支える保育の実現～



【保育士会事業の大きな柱】

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 子どもが豊かに育つ質の高い補遺の実現 | 3. 乳幼児教育への理解促進     |
| 2. 専門性の発揮できる環境構築      | 4. スカンポ募金による保育士等支援 |
- (抜粋) ◎保育の専門性の発信 保育の専門性や保育の魅力、やりがい、保育士・保育教諭等の仕事について「#すかんぽムービー」やSNS（インスタ、X、TikTok）の活用等により広く社会へ発信・周知を行う

令和5年度都道府県・指定都市保育士会正副会長セミナー報告（令和6年2月14, 15日）

行政説明（抜粋） こども家庭庁 成育局 保育政策課 教育・保育専門官 鎮目健太氏

◎こども大綱

◎幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちのビジョン）

「はじめの100か月」とは？

- ・お母さんが子どもを妊娠してから、小学校1年生の途中くらいまでがほしい100か月。
- ・長い人生において、人格の基盤を築く、初めの重要な時期というメッセージが込められています。

◎虐待等の未然防止

- ・保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン
- ・施設職員による虐待に関する通報義務等について
- ・保育士等の負担軽減策（運用上で見直し・工夫が考えられる事項の周知）

◎保育の質の確保・向上について

講義『今後の保育に向けて、保育士等が意識すべきことを考える』 玉川大学教育学部 教授 大豆生田啓友氏

- ・「はじめの100か月の育ちのビジョン」  
●こんな大事な時期だから、国民全員で関わっていきまし

↓

よう＝園が町のまんなかに・・・園が真ん中社会をつくる

園や地域の実所にあった取り組み

産前産後から・・・生まれる前から、お腹の中の環境が大切

乳幼児期の育ち⇒思春期に現れる

- ・良い保育＝子どもが落ち着く
- ・すべてのこどもの障がいにとわたる身体的・精神的・社会的な観点での包括的な幸福
- ・生物としてのヒトの脳と心の育ち⇒園で質の高い保育を受けることで子どもの育ちを支える

①子どもの権利と尊厳を守る・・・生まれながらに権利の主体

子どもの声を聞く「あなたはどうしたい？」

view (ビュー) 思いや感じ方 目線や表情で、人として関わると人として返してくれる、聞こえない声を聞く ※映画「こどもかいぎ」

②「安心」(アタッチメント)と「挑戦」(あそびと体験)の循環

親と限らない、親のモデルともなる **遊びこむ⇒学び**(あかちゃんのころから豊かに学ぶ)

**しがみつく関係＝心の安全基地**

③誕生前から切れ目なく育ちを支える 母性⇒**親性脳**が育っていない

④保護者・養育者のウェルビーイングと育ちの支援・応援

親が機嫌が良いこと⇒思春期の育ちにつながる、親も育つ支援が必要

⑤こどもの育ちを支える環境や社会に厚みを増す

こどもと普段接しない人・・・子どもの声が騒音に聞こえる⇒**お散歩文化大事**

この子の笑顔から始める保育・・・こどもから、保育から、社会を変える

**学生の実習・記録を変える、園内の語り合う風土、職員同士リスペクトする関係**



《第71回熊本小児保健研究会の中で～》就学前から考える「不登校」がテーマでした。帆足暁子先生（親と子どもの臨床支援センター代表理事）が特別講演の中で「赤ちゃんからの育ちの中で、子どもが不安になった時に特定の人にくっついて安心できるか（愛着）」や「不安な時に泣いて、慰めてもらったりだきしめてもらったりして自分で安心を作れる体験をしてきたか（人生最初のストレス対処方法）」の重要性について話されました。愛着は保護者だけでなく、身近な大人から愛され守られる繰り返しの中でつくられる。そのことがヒトに対する信頼を作る。安心して学校に行けるか・・・子どもと関わる全ての大人たちに対して、大切なことをお伝えいただきました。